



# 澤田 めぐみ Megumi Sawada

明治安田厚生事業団 新宿健診センター

経歴 | 1988年 東京医科歯科大学 医学部 卒業  
 1989年 東京医科歯科大学 医学部附属病院第一内科・九段坂病院・多摩南部地域病院内科勤務などを経て、  
 2000年 明治安田厚生事業団 新宿健診センター勤務

## ●医師を志した理由

女性でも一生続けられる仕事かと思いきや、小学生の頃から医師に憧れていた。それだけで医師を志すのは動機が不純だと、大学時代は同期の男子学生とやり合ったこともあったが、研修医一年目のあのキツイ一年間を乗り越えた時、やはり医師になってよかったとしみじみ感じる事が出来た。この充実感はこの職業についてたものでは得られないものであったと思う。

## ●現在の仕事および生活

10年前長男の出産を機に常勤での勤務から、非常勤での勤務に移行。明治安田新宿健診センター非常勤内科医師として、週2日勤務している。女性の健診を担当しているため、顔を合わせて開口一番女性の先生で良かった!と声をかけてもらえることも多い。それ以上に嬉しいのは、診療を終えて退室される受診者の方が、お話出来て本当に良かったと言いながら帰って行かれることであろうか。日々、命を救えるかどうか瀬戸際の仕事をなさっている他の先生方からみればささやかな喜びだろうが、年に一度の健診にわざわざ私の名前を覚えておいて受診して下さる患者さんの存在を励みに、日々の診療を続けている。

今年、長女が小学校に入学し、多少、時間に余裕が出てきた。以前から医療以外の仕事の経験も積みたいと考え、いくつかの会社を設立運営してきたが、やはり最後には医療の仕事に戻りたくなる。開業等の選択肢もあったが、出産後の10年間、医療を受ける側の立場に立つことも多かったため、その経験を生かして、現在は地域の子供達に医療知識を教える医学教室、とうきょうキッズメディカルスクールを主催している。

## ●今後の抱負および後輩へのメッセージ

医師として医療を提供するだけでなく、子育て世代として医療を受ける側に立つ機会が増えるにつれ、現代の高度化した医療が、患者にとってblack boxになっている事を実感する機会が多くなった。乳がん罹患した元女性教師が、「体や病気の事を小学校の時から教える必要性を痛感した」と語るのを目にして、子供に医学を教える事で、微力ながら医療の現場に貢献できないかと考えている。医療に関する正しい知識が、子供、そしてその親の世代、祖父母の世代に伝わっていけば、現在の医師・患者間のコミュニケーションのズレを改善することが出来るのではないかと期待している。

また、体の仕組みや命の不思議を伝える事で、子供達には自分の体や命、ひいては他人の体や命を思いやれる心を育んでもらいたい。自分の子供にまさに伝えたい事を、地域のお子さん達にも一緒にお伝えしていきたいのだ。診療の一线の現場からは退いてしまった私ではあるが、臨床・研究・大学等での教育といった従来の医師の仕事の枠を超えて、微力ながらも医療の世界に貢献することが出来れば幸いである。今後は、是非、本学関連の諸先生方のご指導ご鞭撻をいただければと思っております。



とうきょうキッズメディカルスクール授業風景(小学生の子供を集め自宅を開放し、医療機器メーカーの協力のもとエコーなどに実際に触れてもらいながら授業を進めている)

「とうきょうキッズメディカルスクールと銘打った子供向け医学教室で活動中」

輝く女性からのメッセージ

MESSAGE